

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和4年度第2回宝塚市スポーツ推進審議会
2 開 催 日 時	令和4年9月29日（木）10時00分～12時00分
3 開 催 場 所	市立スポーツセンター 会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■讃岐委員 ■永田委員 ■金山委員 ■谷委員 ■関戸委員 ■田中委員 □大島委員 ■外間委員 ■曾谷委員 ■後藤委員 ■歳内委員
5 傍 聴 者 数	2人
6 公 開 の 可 否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議 題 及 び 概 要	◆報告事項 （1）第18回宝塚ハーフマラソン大会について 新型コロナウイルス感染症の影響により、宝塚ハーフマラソン大会実行委員会において、開催の中止を決定した。 ◆議題 （1）部活動の地域移行について （2）スポーツ活動指導者育成について

報告事項（1）第18回宝塚ハーフマラソン大会について

事務局 8月9日時点で、「令和4年12月25日に開催を予定していた第18回宝塚ハーフマラソン大会開催について、新型コロナウイルス感染症の影響により、ランナーの皆様をはじめ、大会を支えていただくボランティア、沿道の皆様、大会に関わる方々の安全・安心の確保が困難であると判断し、宝塚ハーフマラソン大会実行委員会において、開催の中止を決定した」と、記者発表をした。中止決定前には、実行委員の皆様で開催の有無についてアンケートを取った。ほぼ、中止に関して反対なしという結果であった。もし状況が良ければ、代替りのイベントを開催してはという意見がいくつかあったが、感染者数がかなり増えている状況であったため、断念した。3年連続中止ということで、事務局のスポーツ振興課も経験した人間が2名しかいない。もし来年やるとなると、かなり大変で、また1から作り上げる形になると思う。また、宝塚ハーフマラソンは阪神淡路大震災が起こって10年目に、復興のシンボルとして開催されたが、18年が経過し、もともとの意義をもう一度考え直す時期にきている。

委 員 何か意見はあるか。

委 員 協賛・協力をしてくれる企業があるかどうか重要になってくるかと思う。

委 員 震災の復興の意味合いが忘れ去られている中で、何か意味をもったものになるような工夫が必要である。

委 員 赤字ではないのか。

事務局 今まで通り協賛をいただいても、コロナ禍ではあるため人数を絞ってやっていくとなった時に厳しいと思う。参加費をあげるか、参加賞を希望者だけにお渡しするなどの工夫が必要である。

委員 今年度については中止であるが、来年度開催に向けて、何らかの方法を考えていただければと思う。では、議題に移る。

議題（１）部活動の地域移行について

事務局 スポーツ庁より、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が出された。当市も「宝塚市いきいき部活動のあり方検討委員会」を設置し、令和５年度から７年度にかけて、まず土日の部活動を外部指導員に移行する方向である。土日の活動について積極的に活動できる教員もおり、兼職兼業という形を考えるという話もある。

委員 意見はあるか。

委員 現在中学校では少子化により、廃部になっている部活動がある。例えば、中学校でもサッカーを続けたいのに、サッカー部がない、といった地域がある。そういった場合、部活動の地域移行は有効的である。地域移行が実施されるのであれば、時間の余裕ができ助かる、という教員が大多数だが、自分の時間を削ってでも指導したいという教員もいる。

委員 中体連がどの競技で学校の先生が不足しているか、把握し、整理しなければいけない。お金の問題もあるが、OBに来ていただくなどのカバーができるのではないかと。

委員 指導者について、誰が任命するのか、中体連か、教育委員会か、そこをまずはっきりさせなければいけない。

事務局 県から依頼があり、各小学校区にあるスポーツクラブ２１に、地域移行に対応できますか、とアンケートを出した。２３校あるが、ほぼほぼ難しいという回答であった。ただ、地域移行の話がしっかり整備されれば、考えることはできる、といったクラブも多数あった。部活動が減り、子供たちの選択肢が減る事が一番問題である。地域移行をしたうえで、子供たちが新たなスポーツができる、といった選択肢を広げられるものにしたい。

委員 学校の体育の授業を強化し、いろんなスポーツの経験・体験をし、放課後については自分のやりたい種目の地域スポーツクラブで行う、と割り切った考えが必要である。

委員 宝塚市がどこから公的資金を用意するかが課題になると考える。また、スポーツクラブで受け入れをするのであれば、法人格を持っていなければならない。指導者については、ボランティアではなく、組織間の連携をもって委託をするなどのシステムを考える必要がある。また、地域移行のプランで最後の２行に特別支援学校の運動部活動地域移行について簡単に書かれていた。特別支援学校の対応も忘れないようにしていただきたい。

委員 中学校の地域移行の話が出た際に、高校はどうかと県に聞くと、高校は実施しませんとさっぱりと言われた。中学校の地域移行が整備できたうえで、高校が対応されると思う。１０～１５年時間を要するかと。

地域移行には３つの課題がある。１つ目はお金の問題、２つ目は生徒の安全の問題、３つ目はモラルの問題である。一般の方が指導に当たる際は研修を行うことが必要である。

- 委員 小学校では放課後になると地域のスポーツクラブで活動している生徒が多い。スポーツを通して地域と繋がる事は非常に大事なことである。
- 委員 部活動に熱心な先生もいらっしゃるが、部活動が原因で休職される教員もいる。スポーツ指導者という役割を持った方を配置していただけたらと思う。
- 委員 地域移行が実施されたとして、帰宅時間はいつになるか。学校では帰宅時間が決められていて、家に帰ってご飯を食べ、塾に行く。
- 委員 その感覚を同じである。塾に行って勉強するか、塾に行く代わりにスポーツクラブに行くか、どちらを選ぶか、ということである。
- 委員 それだと、クラブではなく塾を選ぶのではないか。
- 委員 それはその生徒、そのご家庭が選ぶべきものである。スポーツの健全な育成は体育の授業で賄うのが文科省の方針である。
- 委員 勉強をするか、スポーツをするか、全く新たな方針を示されているのか。
- 委員 その通りである。
- 委員 他に意見はあるか。ないようなので、次の議題へ移る。

議題（２）スポーツ活動指導者育成について

- 事務局 スポーツ活動指導者育成についてスポーツ庁が出している概要の中に、指導者資格の取得や研修の実施の促進、部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク、指導者の確保のための支援方策の検討とあげられている。ある程度資格を持っている方がいいのではないかと考える。その基準を見出していく必要がある。
- 委員 意見はあるか。
- 委員 地域で指導をしているが、参加者に「資格をとっているか」と聞かれることがある。指導するにも責任が伴うため、資格をもつことは重要になるかと思う。ただ、資格を取るにもお金がかかり、更新にも費用がかかる点が問題である。
- 委員 大学生が指導するのはどうか。大学生は塾講師をやるので、指導についてお金が発生すれば、協力してくれるはずである。ただ、中学生の教育的な指導面には不安がある。
- 委員 大学生の指導については賛成。卒業生でも指導にきてくれている人がいる。ただ、お金とモラル、安心安全、例えばAEDはどこにあるのか、何かあった時にはどういう体制をとるのか、といった研修が重要になってくると思う。
- 委員 トラブルが起こった際の対応方法など、ルール作りは組織として必要である。技術指導でライセンスがあれば、というのはあるが、心が育たないと、技術も伴わない。ちなみに、宝塚市で指導する場合は18歳以上、阪神・県では20歳以上という決まりがある。そのため、大学生は即戦力になるのではないか。
- 委員 他に意見はあるか。施策がまだまだ変わろうとしているところだが、我々もどのような形をとれば子供たちにとっていい環境になるか、考えていかなければならない。
- 以上で議題の全てを終了した。これで閉会とする。